

# 子供への食育教育について

保科 惣一郎

〔質疑〕社会環境の変化に伴い、家庭環境が大きく変わってしまっただけで、子供を取り巻く環境も大きく変化している。

夜更かしが多く、朝食を食べないで登校する子、間食が増加し食事が不規則な子、好きなものしか食べない偏食の

子等が増加している。子供たちの食生活が乱れている。今、八十％の子供たちが生活習慣病の予備軍と言われている。未来を担う大切な子供達に對してとるべき対応について伺いたい。

# 外郭団体等も含めた財務状況の把握と公表について

沼倉 啓介

〔質疑〕平成十六年度の各会計決算が示され、それらの数値の中にも今後、財政状況は厳しい局面になる兆しが現れ始めてきている。

先の読めない安定的歳入の確保等、自立のむずかしさが浮かび上がる中で、優先的にやるべき事は、本市の全体像

を把握し、市民に公表し現状の理解度を高める必要性の存在であると思われる。それらの実現の一つとして外郭団体等を含めた連結の貸借対照表の作成と公表の必要性について伺いたい。

〔答弁〕昨年、市内の小中学生五年生と中学校一年生を対象に、朝食に関するアンケート調査を実施している。結果は、朝御飯を約二割の子供たちが毎日食べているわけではないという実態がわかった。

学校給食は三つの観点でバランスのとれた栄養のある食事、それから正しい食事のあり方、もう一つが望ましい食習慣を身につけさせる。学校給食センターが中心となり取り組んだ。現在、給食センターに学校栄養職員がおり、

各学校を訪問指導している。保護者には、「給食だより」だけではなくにもならないので、各学校の給食の試食会をやっている。その後給食センターの栄養士の講話等を聞きながら、今の子供たちに必要な栄養素等について正しい情報を与えて、親の意識改革を働きかけている。この学校栄養職員の資質を高めて、今後とも栄養教諭の意向を推進していきたい。食育の大切さは教育委員会でも今後の課題にしているのが現状である。

〔答弁〕市が五〇％以上出資して、また出捐している団体が、白石市土地開発公社と白石市文化体育振興財団の二カ所、両団体とも財務状況の把握はしているし公表もしている。また、補助金を支出している各団体等は四十二団体で、平成十七年度は前年比一三、〇八％減の八千百六十九万六千円の総額となる見込みである。各団体等財務状況の把握は、実績報告書を市に提出させているとともに、諸帳簿、預金通帳等の内容についてもチェックしている。公

表は、今後各団体が公表できるように話し合いを進めていきたい。連結貸借対照表を作成、公表というのは、全都市、都道府県、政令市においても、地方独立行政法人、公社、一定の出資法人を含めた連結貸借対照表、これらを含めて財務状況の把握、公表は確かに必要だと思ふ。現段階では、県、政令市レベルで進められている。その動向を見て、今後どうするかを検討するものである。



食育の大切さ（学校給食）

